

約10年の歳月をかけて実現した、ダム湖に架かる約190mの大橋の高欄や歩道をデザインしたプロジェクト。

地域の象徴となる橋として、高欄の外側に2mピッチで強化ガラスプレートを計191枚取り付け、自然の中へ溶け込みつつ様々な表情を見せる「ガラスブリッジ(ガラスの橋)」を提案している。また、ただ渡るだけの橋ではなく、地域や歴史と会話できるような橋のデザインは出来ないだろうかと考え、ミュージアムやゲームのように楽しめる機能を持ち込んだコンセプトとしている。歩道側のガラスプレートには、自然観察帳(図鑑)として機能するように、ダムエリアの人々とのワークショップによって選定された、91種類の「ハイズカニイキルモノ」が美術家・藤浩志によって親しみやすく分かりやすいデザインで描かれている。

ダムに水没するエリアで生活していた人々は、生活再建地への移住を余儀なくされた。かつての生活の場で生息していた思い入れの深い動植物や虫たちを選び後世へ伝えていくことで、過去と現在をつないでいこうとするプロジェクトである。

名称 : グラスブリッジ  
所在地 : 広島県三次市三良坂町灰塚地内  
施主 : 国土交通省  
主要用途 : 橋梁高欄および歩道  
設計期間 : 1997.08~2002.03  
施工期間 : 1998.03~2007.03  
設計 : 吉松秀樹+アーキプロ  
担当 : 吉松秀樹、前田道雄  
共同設計 : 藤浩志(美術家/図柄作製)、灰塚アース  
ワークプロジェクト実行委員会

